

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-126- (2面)
- ・北海道チクレン業務推進会議・肉牛部会 (3面)
- ・三方原 松浦さん、壮絶な体験を講演(静岡) (4面)
- ・農地の悩み解決へ支援策を紹介(北陸農政局) (5面)
- ・廃珪藻土で堆肥化コスト削減(千葉) (6面)
- ・ゆうき青森「酪農・畜産まつり2023」 (7面)
- ・畜産物需給見直し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ https://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

上皇上皇后両陛下

長野県・大日向開拓地を訪問

8月23日、上皇上皇后両陛下は、大日向開拓地を訪問された。84(昭和59)年の大日向開拓地は、戦後開拓の歴史を伝える写真などを見学。厳かなる開拓者との交流も訪ねられた。

大日向開拓地は、戦後開拓の歴史を伝える写真などを見学。厳かなる開拓者との交流も訪ねられた。

大日向開拓地は、戦後開拓の歴史を伝える写真などを見学。厳かなる開拓者との交流も訪ねられた。



なつかしい大日向開拓地で笑顔が浮かべられる両陛下 (写真提供: 宮内庁)

両陛下は、戦後開拓の歴史を伝える写真などを見学。厳かなる開拓者との交流も訪ねられた。

両陛下は、戦後開拓の歴史を伝える写真などを見学。厳かなる開拓者との交流も訪ねられた。

両陛下は、戦後開拓の歴史を伝える写真などを見学。厳かなる開拓者との交流も訪ねられた。

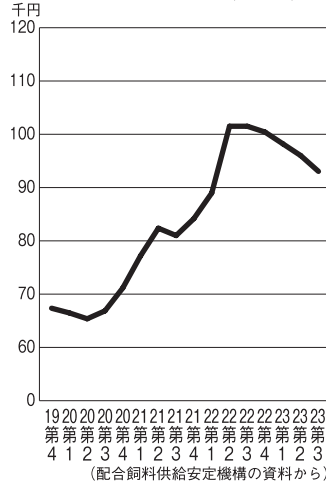
配合飼料価格4期連続下げ

下げ幅は小さく高止まりは継続

J A全農は9月21日、た天候が続いたことで、シカゴ定期は軟調な展開となった。大豆は、主要輸入国である中国の大豆価格が堅調な需要により上昇していることに加え、為替円安の影響などから値上がりが見込まれる。

配合飼料価格は4期連続の値下げになるものの、高止まりの状況は改善されていない(図参照)。

全畜種配合価格(税込)



顔の見える畜産専門連として

全開連23年度事業計画案

全国開拓農業協同組合連合会(全開連)は10月27日、東京・アルカディアアケ谷で第75回通常総会を開催する。総会に先立ち、10月3日に全開連会議室で北海道・東北・関東・中部関西地区の、5日には熊本県人吉市で九州地区の「事業概況説明会」を開催。総会提出議案が会員に説明され、意見聴取が行われた。

提出議案は、第1号議案「第75年度事業報告、

農水大臣に宮下氏起用

第2次岸田再改造内閣発足

岸田文雄首相は9月13日、第2次岸田第2次改造内閣を発足させた。農林水産大臣には、宮下一郎氏(65歳、自民党、衆務調査会農林部会長など)を起用した。

また、政府は9月15日の閣議で、副大臣の人事を決めた。農林水産副大臣には、武村展英氏(51歳、自民党、衆院・滋賀3区、当選4回)と鈴木憲和氏(41歳、自民党、衆院・山形2区、当選4回)が就任した。

急補てん交付金」を含め、た補てん金が交付される予定。正式な補てん金交付通知は11月初旬となる見込み。

望まれる。

なお、23年度第2四半期(7~9月)についても、公益社団法人配合飼料供給安定機構より「緊急見込み」。

組織の「顔の見える畜産専門連」としての優位性を最大限に発揮した生産・販売事業を展開いたします。

中期3カ年計画の初年度で、また人吉食肉センター、ゼンカイミート(株)本社工場が復活した年でもあり、会員と一体となつて生産・販売事業を展開するとしている。

基本方針は次のとおり。

- (1) 会員と一体となった専門農協としての強固な組織づくり
- (2) 生産性向上のための目標に沿った経営・技術指導の実施
- (3) 低廉・良質な生産資材の開発と供給
- (4) 部分肉の国内外での利用結集に努めます。
- (5) 有利販売体制の強化
- (6) 部分肉の国内外での流通による事務効率化

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

食料・農業 知っておきたい話

第126回

食料・農業危機の深刻化と迷走する政策ベクトル ①

東京大学教授 鈴木宣弘氏



国際情勢もさらに悪化し、猛暑もあって、国内農家の疲弊もさらに深刻化しているが、国内農業振興による自給率向上のための政府の抜本的な対策は出されず、一方で、昆虫食や人工肉、無人農場などのフードテック投資が議論されている。さらに酪農では、需給がひっ迫基調を呈しつつあるのに国内では生産抑制を続け、バター輸入枠の拡大が行われるという不条理な事態になっている。

高まるリスク ロシアがウクライナの穀物積出港の攻撃を7月

から再開し、インドは世界の輸出の4割を占めるコメの輸出の多くを7月から停止し、紛争に備えて中国は人口14億人が1年半食べられるだけの穀物を備蓄するために買い占めているという。国際情勢はさらに悪化している。

一方、日本の穀物備蓄能力は1.5〜2カ月だ。この点でもまったく危機への備えに雲泥の差がある。今は、海外から食料や生産資材の輸入が滞りつつある危機が増大している。

飼料に加えて、種と肥料も考慮して、直近の農水省データから実質的自給率を試算すると、2022年の日本の食料自給率(カロリーベース)は

増産が必要と表明している。多くの乳業メーカーも

国内生産を抑制し、バター輸入枠を拡大する愚

どう見ても、国内生産の強化が必要な状況だが、現実的政策は逆行している。とりわけ酪農では、需給がひっ迫基調を呈しつつあるのに国内では生産抑制を続け、国の

増産が必要と表明している。多くの乳業メーカーも

輸入というところは、国産はそもそも足りていない。減産ではなく増産して輸入から国産に置き換える需要創出(特にチーズ)こそ必要なのである。

しかし、この現実を目の当たりにしても、24年ぶりに改定される「食料・農業・農村基本法」においても「食料自給率向上」という文言が一度も出てこないのが農政の現実である。

(次号に続く)

生乳生産量 下期は持ち直すか

Jミルク23年度 需給見通し 牛乳値上げで販売数減

Jミルクは9月29日、23年度の生乳・牛乳乳製品の数値(概算)を公表した。7月までの生乳生産量は、

全国の生乳生産量は、

Table 1: 23年度の生乳生産量 (千t) with columns for month, production, and year-on-year change.

前年度比3.2%減の729万5千tと2年連続の減産となる見通し(表1)。

上期の生産量は前年を下回る推移となっているが、下期に向かっても、

この見通しでは、酪農経営改善緊急支援事業(経営牛早期リタイア事業)の効果は考慮していないが、8月までは実績として反映されている。

一方、牛乳等生産量(「Jミルク需給見通し」改定となった8月は、牛

日本の実質食料自給率の試算

Table showing estimated real food self-sufficiency rates for various items like rice, wheat, soybeans, etc.

資料：農水省による2022年度食料自給率を基に鈴木宣弘が試算。

*飼料自給率を反映した数値。

**野菜の種の自給率10%が米・麦・大豆でも現実になったと仮定。

***てん菜の種の自給率が約3割であることも考慮した。しない場合の実質自給率は、10.2%。

表2 牛乳類の月別販売動向

Table 2: Monthly sales trends for dairy products from April to September.

表1、2はJミルクの資料より作成

8月値上げ

脱脂粉乳等輸入枠据え置き

農水省は9月29日、バター及び脱脂粉乳の23年度輸入枠数量の検証結果を発表した。

今年1月に制定した輸入枠数量(生乳換算で13万7千t)を据え置いた。また、事業者の要望等を踏まえ、バター1万3200t(5月検証から23200t増)、脱脂粉乳7500t(同据え置き)とした。

国家貿易による輸入枠数量は、同省が毎年1月(減)、脱脂粉乳6万3410t(3万3398t減)だった。

米国農務省は9月12日(現地時間)、23/24年度(9月〜翌8月)の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した。

世界のトウモロコシ生産量は12億1429万t(前年度比5.1%増)と、前月から79万t上方修正され、前年度をやや上回り、過去2番目の生産量が見込まれている。

トウモロコシ生産量史上2位

地域別にみると、米国の収穫面積とウクライナの単収の増加が見込まれる。また、EUではフランスとブルガリアで減産が見込まれる一方で、ドイツの増産が見込まれ、EU全体としては下方修正された。

輸出量は、各地域とも前月から動きがなく、世界全体では1億9619万t(同8.0%増)となっている。

消費量は、世界全体で11億9977万t(同2.8%増)と前月から60万t下方修正された。地域別では、主要消費国である米国および中国が据え置かれた中で、アルゼンチンが上方修正された一方、カナダおよびEUが下方修正された。

チクレンミートで枝肉研修

北海道チクレン 業務推進会議 肉牛部会研修会

北海道チクレン農業協同組合連合会(以下、北海道チクレン)は10月5、6日の両日、北見市において業務推進会議・肉牛部会研修会を開催した。ここ数年はコロナ禍で中止されていたが、4年ぶりに開催され、全道から肉牛生産者、会員農協職員ら総勢40名以上が集結した。

1日目は、ホテル黒部で研修が行われ、冒頭の挨拶で北海道チクレンの伊藤重敏理事長が「諸物の価の高騰により、牛肉消費が落ち込んでいる状況にあります。牛肉加工品について、改めて詳しく研修した。」

「肥育生産技術の向上」では、飼養管理のポイントとして1頭当たりの飼槽幅を60センチ以上取り、自由に摂取できることが望ましい、とした。また、配合飼料価格高騰の対応、肥育でのトウモロコシサイレージの給与が推奨された。

2日目は、(株)北海道チクレンミート北見工場において、牛枝肉の視察研修が行われた。自分たちが育てた牛の枝肉をみて、今後の飼養管理に役立てる研修となった。

また、現在北海道チクレンは肥育後期の配合飼料に10%の国産米を入れる試験を行っており、従来の飼料を給与した牛の枝肉との比較も行った。北海道チクレンでは、17戸の肉牛肥育農家が委託生産を行っており、全頭(株)北海道チクレンミートで畜され、生活クラブ生協など全国に販売されている。



上：1日目、4年振りに集結した会議
下：2日目、枝肉の説明をつける参加者

将来にわたる農業体制構築

22年度「日本型直接支払」実施状況

農水省は8月30日、22年度の「日本型直接支払」(中山間地域等直接支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金、多面的機能支払交付金)の実施状況を公表した。

中山間地域等直接支払 農業生産条件の不利な中山間地域等において、集落等を単位に、農用地を維持・管理していくための協定を締結し、それに従って農業生産活動を行う場合に、面積に応じて一定額を交付する。

22年度の協定数は、2万4312件で前年とほぼ同数で、交付金の交付面積は、60万2091畧で前年比1%増となった。

集落協定の内容としては、「将来にわたる農業生産活動等が可能となる集落内の実施体制構築」が88%で最も多かった。

▽環境保全型農業直接支払交付金 農業者の組織する団体や、一定の条件を満たす農業者等を対象に、化学肥料、化学合成農薬を5割以上低減する取り組みと合わせて行う地球温暖化防止や、生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援。

実施市町村数は852で全市町村の50%にのぼり、前年比1%増となった。

▽多面的機能支払交付金 地域共同で行う、多面的機能を支える活動や、

開拓組織の動き

10月後半から11月に予定されている開拓組織の主な行事は次のとおり。

10月
20日 ゆうき青森農協 肉共励会(東京)
21日 岩手花平農協乳牛共励会(岩手)

11月
2日 全開連東北地区 開拓牛枝肉共進会(東京食肉市場)
16日 全開連代表者大会・全国開拓青年女性研修会(東京)
30日 宮崎県乳肥農協 常総会

23日 宮崎県乳肥農協 肉共励会(宮崎)
26日 全開連理事会 全国開拓振興協会 理事会

27日 全開連第75回通常 総会・理事会 監事会 全国肉用牛枝肉共励会(東京食肉市場)

鈴木稔さん見事名誉賞を獲得

岩手県畜産共進会ホルスタインの部

第67回岩手県畜産共進会のホルスタイン種の部で、鈴木稔さんが9月1日、滝沢市のJ A全農いわて中央家畜市場で開催された、岩手花平農協(花平ホルスタイン改良同志会)の鈴木稔さんの出品牛(セブ)が、4月22日に

第67回岩手県畜産共進会のホルスタイン種の部で、鈴木稔さんが9月1日、滝沢市のJ A全農いわて中央家畜市場で開催された、岩手花平農協(花平ホルスタイン改良同志会)の鈴木稔さんの出品牛(セブ)が、4月22日に



セブンスヘブンBJチップクラッシュ

開拓魂の復活を待つ記念碑

福島県浪江町津島・沢先開拓

福島県浪江町津島(旧津島村)の沢先開拓は、300名以上が入植した。阿武隈山系の日山(天王山と呼ばれる)と太平洋の間位置し、標高約4500mにある。浪江町の市街地から北西に20分、入植と同時に住まいの心配があり、かやを使って掘り立て小屋を作り、食料の心配では、朝明けきらない時から開墾した。初めは食料難という中で、穀物や野菜の栽培が中心であったが、53、54年の連年の冷害により、酪農が福島県の開拓事業全体の象徴となり、福島県開拓

45年当時は津島村には300名以上が入植した。阿武隈山系の日山(天王山と呼ばれる)と太平洋の間位置し、標高約4500mにある。浪江町の市街地から北西に20分、入植と同時に住まいの心配があり、かやを使って掘り立て小屋を作り、食料の心配では、朝明けきらない時から開墾した。初めは食料難という中で、穀物や野菜の栽培が中心であったが、53、54年の連年の冷害により、酪農が福島県の開拓事業全体の象徴となり、福島県開拓



左が35周年、右が50周年記念碑

80年に入植35周年の開拓記念碑が建てられ、その15年後に50周年の碑が建てられた。今年3月31日に、津島を含む3カ所の特定復興再生拠点区域(復興拠点)が避難指示解除となつたが、津島地域は約153畧(1.6%)しか解除とならず、沢先開拓など多くの開拓地が、帰還困難区域のままだった。11年3月11日の東日本大震災による福島原子力発電所事故で、浪江町全域が帰還困難区域となり、全戸避難となつてきた。酪農などの畜産経営者は、家畜の処遇を決めるための遅れた避難であった。これまで、どんな逆境も乗り越えてきた開拓魂を見つめてきた2代の碑が、静かに開拓者たちの帰りを待っている。

静岡 三方原

松浦さんが講演 壮絶な体験を

「七つ釘と三方原開拓」と題し

静岡県浜松市の三方原 兄弟の二男として生まれ には戦後開拓農家が多数 残っており、それぞれ自 身の経験を伝えている。

終戦記念日直前の8月 13日、三方原協働センタ ーにおいて、地域づくり 講座「戦争と市民のくらし」が開催された。

千枝雄さん(95歳)が、 自著「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦 後開拓に至るまでの壮絶 な半生と戦争体験から得 た教訓を踏まえ、「七つ 釘と三方原開拓」と題し、 講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。



講演を行う千枝雄さん



千枝雄さんの著書の表紙



若かりし頃の千枝雄さん。たくさんの研修生と一緒に



当時のハママツファームの様子

写真提供：4枚ともに浜松地域まちづくり協議会

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

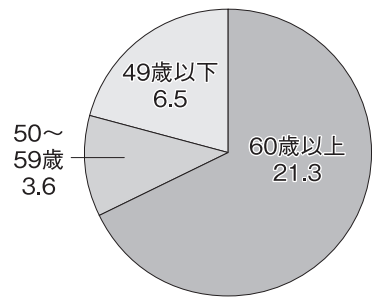
「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

「七つ釘と牛飼いの物語り」から、自らの戦後開拓に至るまでの壮絶な半生と戦争体験から得た教訓を踏まえ、「七つ釘と三方原開拓」と題し、講演を行った。

新規就農者5万人を割る 女性の実家就農者は10%増加

新規自営農業就農者数(年代別)



農水省は8月30日、22年新規就農者調査(22年2月1日〜23年1月31日)の結果を発表した。新規就農者は4万5840人で、前年より12.3%減と、大きく落ち込んだ。調査が堅調なことが要因で、5万人台を割ることになった。

お肉や野菜、冷凍で賢く消費

味損なわず小分けに食べよう

立命館大学などで構成された「ゆとりむプロジェクト」は、野菜や肉の冷凍保存への意識や知識について調査し、その結果を9月28日に公表した。

下味冷凍のイメージ



一目でわかる! 冷凍・解凍チャート

冷凍・解凍チャートの表

両図ともに旭化成ホームプロダクツ機のホームページから

農地など悩みへ活用可能な支援策紹介 中山間地域のための逆引き集

中山間地域は、食料生産の場として重要な役割を担っている。その一方で、傾斜地が多いなど、条件が不利であるとともに、鳥獣被害の発生、高齢化や人口減少、担い手不足などの厳しい状況に置かれている。このような条件下でも、将来に向けて農業生産を維持していく必要がある。

こうした状況を受け、北陸農政局では中山間地域での営農に活用できる支援策や事業などを検索できる逆引き集を作成している。同局は8月、「中山間地域のための逆引き集2023」を作成、公表した。

多くの政策集は支援事業ごとに整理されているが、そもそも支援事業の名称が分からないというケースもある。

そこで、この逆引き集では、「課題は何か」「どんな悩みか」から、活用可能な支援事業とその内容を検索できるようになっている。

同資料の「インデックス編」では、中山間地域での課題や悩みなどがリスト化されており、それぞれの悩みへの対応策と活用可能な支援事業を調べることができる。「施策編」では、インデックス編に記載されている支援事業について、ポイントや採択要件が紹介されている。

戦後開拓地は中山間地域に位置することが多いため、支援事業について知りたい場合は、同逆引き集を活用してほしい。同資料は北陸農政局ホームページから閲覧・印刷することができる。

摘採面積や生葉収獲量など減少 23年産一番茶(主産県)

農水省が8月16日に公表した「23年産一番茶の摘採面積、生葉収獲量及び荒茶生産量(主産県)」によると、摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収獲量と荒茶生産量の全てが減少している。

主産県(5府県)の生葉収獲量は前年から9400t(8%)減の10万6600t、荒茶生産量は1600t(7%)減の2万1000tだった。10a当たり生葉収量は、

作柄の良かった前年産から6%減の448kgとなった。摘採面積は、600ha(2%)減の2万3800haだった。

県別にみると、生葉収獲量は静岡が4万5200t(13%)減で最も多く、次いで鹿児島が4万4000t(1%)減、三重が9900t(17%)減だった。荒茶生産量は静岡9060t(14%)減、鹿児島8440t(4%)増、三重1960t(17%)減の順で多かった。

バレイショ・レタスで収獲量増加 22年産秋冬野菜統計

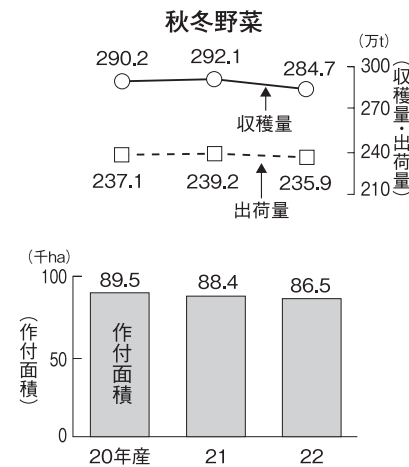
農水省は8月30日、「22年産指定野菜(秋冬野菜等)及び指定野菜に準ずる野菜の作付面積、収獲量及び出荷量」を公表した。指定野菜のうち、秋植えバレイショ・冬レタスの2品目で収獲量の増加が見られたが、他品目は概ね前年産並み、あるいは減少した。

《指定野菜》

①秋冬野菜

全体の作付面積は8万6500haで、前年産から1900ha(2%)減少した。収獲量は7万4000t(3%)減の284万7000t、出荷量は3万3000t(1%)減の235万9000tとなった。

秋冬野菜に指定されている8品目の収獲量をみると、秋植えバレイショ、冬キャベツ、冬レタス、秋冬ネギの4品目で前年産並みか増加となっている。最も上がり幅が大きかったのが秋植えバレイショで、2000t(6%)増加した。作付面積は140ha(6%)減少し

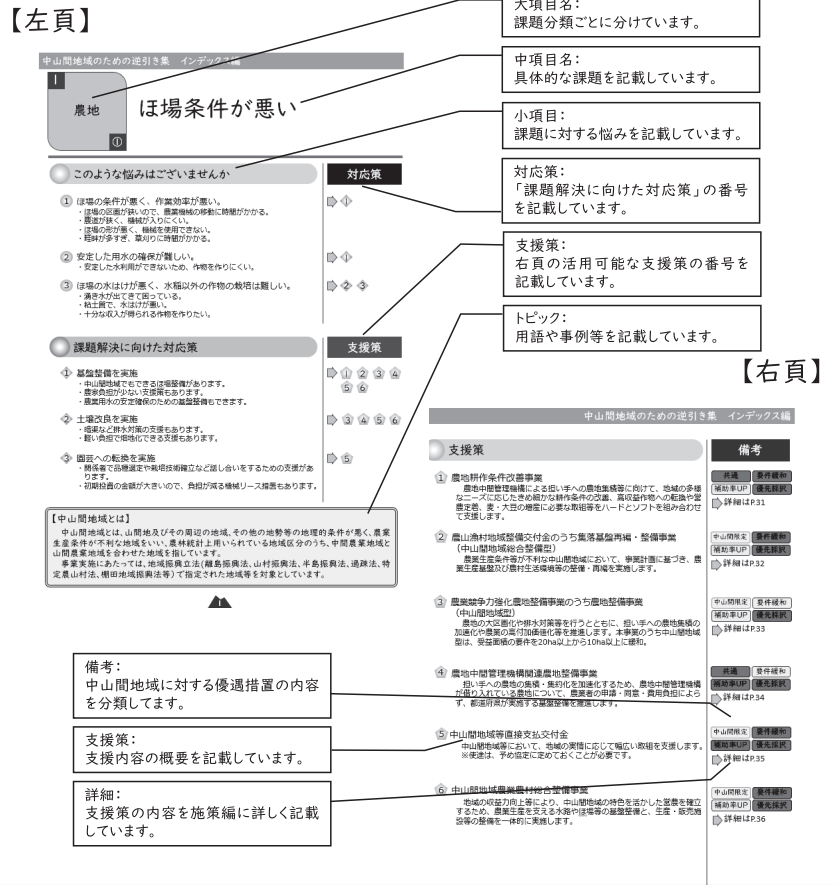


たが、前年産が不作だった長崎県で生育が順調だったことなどが影響し、10a当たり収量は180kg(12%)増加した。

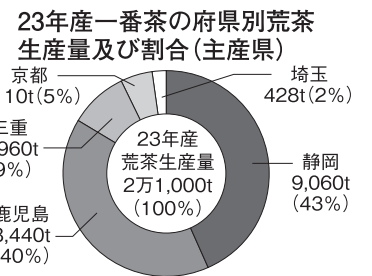
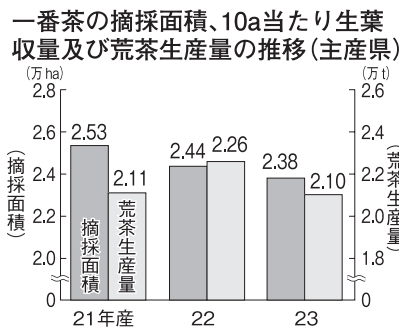
一方、秋冬ダイコン、冬ニンジン、秋冬サトイモ、秋冬ハクサイの4品目で前年産より減少した。最も下がり幅が大きかったのが秋冬ダイコンと秋冬ハクサイで、それぞれ4万2300t(5%)、2万7700t(5%)減少し

「中山間地域のための逆引き集」利用の手引き

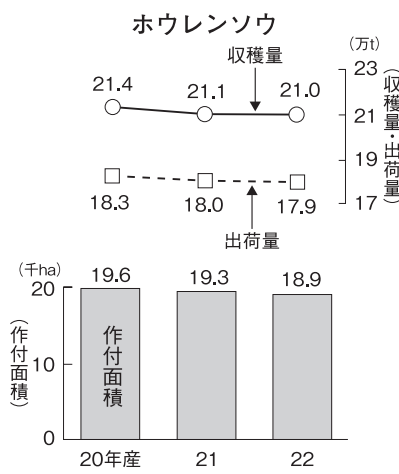
本逆引き集では、中山間地域での課題や悩み等への対応策と活用可能な支援策を紹介しています(インデックス編)。インデックス編に記載されている支援策の詳細は、施策編に記載しています。



北陸農政局の資料から



注:統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。



た。両品目ともに、生産者の高齢化などの労力事情による作付中止や規模縮小が影響している。

②ハウレンソウ

作付面積は1万8900haで、400ha(2%)減少した。10a当たり収量は1110kgで、20kg(2%)上回った。収獲量は20万9800t、出荷量は17万9000tで、ともに前年産並みとなった。

《指定野菜に準ずる野菜》

全体の作付面積は14万3200haで、前年産に比べ2400ha(2%)減少した。収獲量は7万1000t(3%)減の219万

9000t、出荷量は5万t(3%)減の189万4000tだった。

収獲量が伸びたのは27品目中7品目で、最も伸びたのはレンコンで9%増、カボチャが5%増と続いた。いずれも天候に恵まれ生育が順調だった。

収獲量が減った品目をみると、ゴボウとグリーンピースが12%減と最も下がり幅が大きい。ゴボウは青森県での冠水・長雨による腐敗や奇形の発生、グリーンピースは北海道で収穫期に降雨が続く適期収穫ができなかったことにより、収量が減少した。

廃珪藻土で堆肥化コスト削減

オガクズなどと併用で

昨今ではバイオマス需要の増加などから、オガクズなどの堆肥化資材が入手困難、価格高騰の厳しい状況に置かれている。乳用牛のふん尿は水分率が高く、堆肥にするためには乾燥処理や水分調整材を利用しなければならず、酪農家の悩みのタネとなっている。

そこで千葉県畜産総合研究センターは、スター工場や製糖工場でろ過材として使われ、千葉県近郊で年間約8700tが有償廃棄されている「廃珪藻土」を堆肥化の副資材として使う試験



廃珪藻土（黒い部分は活性炭）

を行った。珪藻土は植物性プランクトンである珪藻の殻の化石で、多孔質で調湿機能に優れている。

～試験方法～

廃珪藻土は現在、畜産農家にほとんど利用されていないが、廃棄物処理法などに基づく手続きを行えば、安価に入手できる。

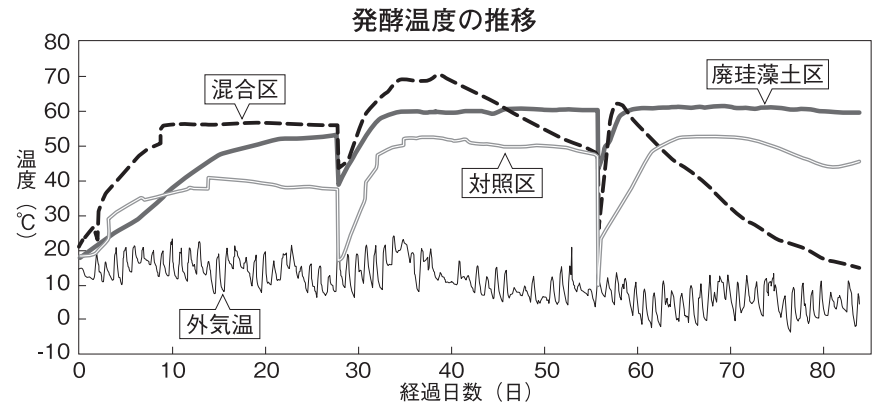
試験で使った廃珪藻土の成分値は表のとおり。乾物当たりの易分解性有機物は14.1%（オガクズの約8.5倍）、熱量は4407cal/gで若干の活性炭を含んでいる。

牛ふんは、同センター搾乳牛舎のものを、バークリーナーで固液分離を行わず回収したものを用いた。牛ふん845kgに対し廃珪藻土1600kgを混ぜた「廃珪藻土区」、牛ふん1260kgに廃珪藻土とオガクズをそれぞれ275kgずつ混ぜた「混合区」、牛ふん1350kgにオガクズ450kgを混ぜた「対照区」の3区を

廃珪藻土の成分値

成分値	含有率 (%)						重金属	六価クロム	pH
	水分	有機物	全窒素	リン	カリ	カルシウム			
廃珪藻土	24.3	59.4	2.4	0.7	0.0	0.1	未検出	未検出	3.8

注) 含有率は水分以外はすべて乾物当たりの数値とする。



設けた(各区、容積重が650kg/m³以下になるように調整)。

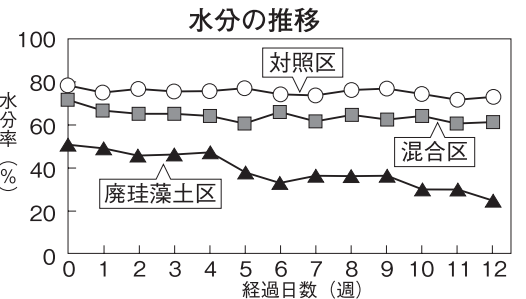
堆肥舎(間口18.9m、奥行5.4m、棟高4.3m)で20年10月～21年1月にかけての12週間堆積し、ホイールローダを用いて4週ごとに切り返し作業を行った。

～試験結果～

発酵温度は、混合区の39日目の70.7℃、廃珪藻土区の69日目の61.3℃、オガクズ区の67日目の53.1℃が最も高かった。廃珪藻土区は60℃以上の期間が36～73日目までの37日間続いた。

発酵温度の推移と水分率は図のとおり。廃珪藻土区と混合区は対照区に比べて高い温度で推移し、水分率も低かった。ただ、廃珪藻土区は発酵温度の上昇が他の2区より遅かった。廃珪藻土が粉状のため、水分が入ると粘土状になりオガクズのような通気性が確保できなかったためとみられた。

試験の結果から、廃珪藻土単体での



表・写真・図全て千葉県畜産総合研究センターの資料から

発酵は大量の廃珪藻土が必要となることから、オガクズと併用し、十分な堆肥化期間を設けることで副資材の購入コスト低減に役立てることができた。冬季の堆肥の発酵温度上昇にも役立つ。

また、試験は行っていないものの、発酵温度が高く水分率の低下も高いことから、戻し堆肥としての敷料利用も可能ではないかとみられる。

なお、使用する場合には衛生的な観点から、発酵温度が60℃以上になるように十分な通気と、発酵ムラが無いように堆肥化過程での均一な攪拌を心がける必要がある。

豚熱 雨や鳥にも要注意

防護壁・ダブルフェンス導入を

豚熱の拡大が数年続いている。「オルテック養豚セミナー2023」で榎あかばね動物クリニックの伊藤真氏が唱えた対策を紹介する。

●四方八方から病気は侵入する

伊藤氏は、豚熱など病気は「入口から入ってくる」のではなく、「四方八方から入ってくる」という認識に改めるよう強く訴えかけた。イノシシのふん尿などに接触した野生鳥獣が持ち込むほか、イノシシの死がい等をカラスなどの鳥が持ち込むこともある。

感染したイノシシに汚染された野生鳥獣のふん尿などを巻き込み、雨水も汚染される。そうした雨水に汚染された土砂の畜舎への侵入や、敷料、ソーラーパネルの汚染にも注意する。フタをしていない豚柵が雨水で汚染され広がった例もある。

「イノシシが居なくても豚熱は侵入してくる」と意識せねばならない。

●防護壁+ダブルフェンスを

スペインの獣医師は「イノシシが超えてくるから柵は2m必要」と唱えており、既存の柵を活かす場合、高さの補強が必要。しかし、イノシシは鼻で柵の下から潜り込む習性があるため、防護は「柵」よりも防護「壁」がより

実際の防護壁



榎あかばね動物クリニックの資料から

有効だ。防護壁は安全鋼板を使うが、柵と大差ない値段のため、設置を進めたい(写真)。また、防護壁の内側にもフェンスを導入し、ダブルフェンスにするとより効果的。

アフリカ豚熱で甚大な被害を被っている東南アジアの人々は、「蚊やハエが入ってくるところで豚を飼うことなんかできない」と言う。アフリカ豚熱

にはワクチンもなく、衛生対策を徹底するしか防ぐ方法が無い。防「鳥」ネットではなく、防「虫」ネットが求められる。日本も海外との往来が増えているため、アフリカ豚熱を念頭に置いた対策が重要となる。

ワクチンもハード面の対策も過信せず消毒・防疫を徹底し、四方八方からの疾病の侵入に常に備え対策したい。

クマの襲来全国的に多発 飼料の保管、廃棄乳処理要注意



今年は全国的に、ドングリが凶作となっている。山に食べ物が無いためクマが人里に下りてきてしまい、人や家畜を襲うなど被害が続発している。クマの襲撃に備えた対策を確認する。

●人間の存在をよくアピール

牧草の収穫などを始め、作業時にはラジオを流しておくなど、人間の存在をアピールする。基本的には臆病な生き物のため、クマも人との遭遇に驚く。もし遭遇してしまった場合には、逃げるものを追う習性があるため、走っては逃げず、目をそらさずゆっくり後ろを振り返りして避難する。ク

マ撃退スプレーやクマ避け鈴を常備し、遭遇の危険に備える。

●廃棄乳や飼料の扱いに要注意

秋にエサが足りないクマにとっては酪農場は食べ物の宝庫で狙われやすい。廃棄乳を目当てに畜舎に侵入したケースが複数あるため、捕獲檻を準備しておくなどして、侵入させない。

また、飼料作物や油かすや燃料などもクマが食べるため、侵入には十分に警戒が必要。電気柵で周囲を囲うなどの工夫をし、絶対に侵入をさせないようにしなければならない。

ゆうき青森 4年ぶりの開催で大盛況！ 「酪農・畜産まつり2023」

ゆうき青森農業協同組合は10月7日、らくのう営農センター(野辺地町)で「酪農・畜産まつり2023」を開催し、地場産の牛肉・牛乳製品のPRを行った。会場には周辺の住民が多数来場して賑わった。コロナ禍の影響で、同農協では4年ぶりの開催となった。



の来場者が行列を作り、笑顔でおいしそうに肉を頬張っていた。

全開連からは、役職員が前日から丁寧に夜通し焼き上げた開拓交雑種牛のモモ肉丸焼きを提供、無料配布した。配布開始前から老若男女を問わず多く

同農協からは、地場産の交雑牛・和牛の販売会や牛乳の試飲、ヨーグルトの配布や野菜詰め放題の催しなどが行われ、消費者に地元農産物のおいしさ

沢田さん (ゆうき青森農協) 和牛販売会 in 東北町

東北町(青森県)と東北町畜産技術員連絡協議会は9月2日、同町の「道の駅おがわら湖」で、「あおい森の牛乳」のイベントと東北町産黒毛和牛の販売会を行った。イベントでは、沢田義彰さん(ゆうき青森農協所属)が生産した黒毛和牛の格安販売が行われ、購入者には先着200名



写真提供：東北町役場

に「あおい森の牛乳」1パックのプレゼントもあり、多くの来場者で賑わった。



牧草転がし大会の様子

をアピールした。

その他、牛乳早飲み大会やカラオケ

大会、牧草転がし大会などの催しで会場は大いに盛り上がっていた。

肉質影響与えず 枝重増加、コストダウン シラカバ粗飼料に切替で

近年、黒毛和種の肥育などに用いられる発酵バガスの価格が高騰している。また、輸入の割合が多い発酵バガスに対し、シラカバなどのカンバ粗飼料(木材チップを高温高圧の水蒸気によって蒸煮加工)は国産粗飼料として代替できる可能性がある。そこで、北海道立総合研究機構林産試験場(旭川市)は、発酵バガスの代替品としてのカンバ粗飼料の給与が黒毛和種の発育と枝肉成績に及ぼす影響を調査した。

最適な給与量の試験

▽方法▽

試験は17年8月～19年3月にかけて

一般の牧場(北見市)で行った。18頭の黒毛和種肥育牛を用い、血統に偏りがないように6頭ずつ3試験区に配置した。試験区は、発酵バガスを給与する「慣行粗飼料区」、発酵バガスと同じ湿重量のカンバ粗飼料で置換した「カンバ粗飼料区」、発酵バガスの2倍の重量のカンバ粗飼料を給与する「カンバ多給区」の3区とした。

慣行粗飼料区・カンバ粗飼料区では、試験対象の粗飼料を肥育期間中に0.5kg/日/頭給与し、12～13ヵ月齢の61日間のみ1.0kg/日/頭に増量した。多給区では、カンバ粗飼料を両区の2

表1 試験牛枝肉の格付形質、枝肉試算額

格付形質	慣行粗飼料区 (n=6)	カンバ粗飼料区 (n=6)	カンバ多給区 (n=5)
枝肉重量 (kg)	437.0±22.8	471.8±30.2†	451.4±40.9ns.
胸最長筋面積 (cm ²)	58.5±7.4	56.3±6.3ns.	57.8±11.7ns.
ばらの厚さ (cm)	8.5±1.0	9.0±0.7ns.	8.5±1.1ns.
皮下脂肪厚 (cm)	2.5±0.5	2.7±0.6ns.	2.7±0.4ns.
歩留基準値	75.0±1.4	74.4±0.8ns.	74.5±2.1ns.
牛脂肪交雑基準(B.M.S.)	8.0±1.9	7.7±1.6ns.	7.0±1.8ns.
牛肉色基準(B.C.S.)	4.3±0.5	4.0±0.0†	4.0±0.0†
締め	4.5±0.5	4.5±0.5ns.	4.2±0.7ns.
きめ	4.5±0.5	4.5±0.5ns.	4.4±0.5ns.
牛脂肪色基準(B.F.S.)	2.8±0.4	3.0±0.0ns.	3.0±0.0ns.
枝肉試算額			
枝肉試算額(千円)	1169.9±98.8	1262.5±88.1ns.	1172.8±191.4ns.
日齢枝肉試算額(円)	1281.6±97.2	1394.3±116.2ns.	1282.6±213.9ns.

数値：平均±標準偏差

†：P<0.10

枝肉試算額：2019年3月19日の東京市場の枝肉単価を元に瑕疵を考慮せず計算

統計：慣行粗飼料区を対照区とした多重比較

倍量給与している。

濃厚飼料は、3区で共通とした。10～15ヵ月齢にかけて3kg/日/頭から8.5kg/日/頭で漸増し、21ヵ月齢まで8.5kg/日/頭で維持。22ヵ月齢から出荷までは10kg/日/頭以上となるように飽食給与とした。1日量を朝夕の2回に分けて給与し、発酵バガスもしくはカンバ粗飼料をトップドレス(飼料の上から振りかける)して給与した。稲わらは試験期間を通して飽食とした。

各試験区の6頭を1群として木材チップを敷き詰めた牛房で飼養し、水とミネラルブロックは自由摂取とした。と畜日齢の平均は、慣行粗飼料区912日、カンバ粗飼料区907日、カンバ多給区915日と、ほぼ均等となるように設定した。

▽結果▽

試験開始後8ヵ月目にカンバ多給区の試験牛1頭が、カンバ粗飼料が原因ではない鼓脹症で事故死した。

肥育牛の格付形質、枝肉試算額は表1の通り。カンバ粗飼料区は、慣行粗飼料区より枝肉重量が大きい傾向が見られた。一方、カンバ粗飼料を給与した2つの試験区で、慣行粗飼料区よりB.C.S.(牛肉色基準)が0.3減少する傾向もみられた。

以上の結果から、慣行の発酵バガスを湿重量でカンバ粗飼料に置き換える

給与方法が、枝肉成績を向上させる可能性が示された。

粗飼料切り替え前後の枝肉成績比較
同牧場全体の黒毛和種肥育牛について、慣行粗飼料(16年9月～17年3月にかけての出荷)からカンバ粗飼料(18年5～11月にかけての出荷)に切り替えた時の切り替え前後の枝肉成績は表2のようになった。粗飼料の切り替えによって、枝肉重量は19.9kg増加した。

枝肉格付形質については、胸最長筋面積が4.4cm²、バラの厚さが0.5cm、歩留基準値が0.2増加し、B.C.S.が0.3小さくなった。

また、カンバ粗飼料が給与直後から嗜好性が高い様子が見られ、馴致期間は不要だった。

これらの試験から、黒毛和種の肥育において、発酵バガスをカンバ粗飼料に切り替えることで、格付形質の改善と枝肉重量を増加させる給与効果が確認された。発酵バガスと同等かそれ以下の価格で安定的に供給されるカンバ粗飼料を給与することで、同等以上の肥育成績が期待できるとしている。

最後に、乳用種や交雑種に同様に給与した場合の効果については、最適な給与方法を模索中であるが、現場では効果が感じられるため既に給与を行う肥育農家も複数存在し、可能性は十分に考えられるとしている。

乳用種・交雑種で発動続く 牛マルキン8月分

農畜産業振興機構は10月11日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の23年8月分の交付金単価(概算払い)を公表した。乳用種・交雑種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、引き続き交付が行われる。肉専用

種は43都道府県で発動した。

交付金単価(1頭当たり)は、乳用種が2万7917.3円、交雑種は5万1843.8円となっている。

前月分と比べると、交雑種は販売価格が低下し、生産費は変動しなかったため交付金は増額した。乳用種も販売価格が低下したが、素畜費も減少したため交付金は減額した。

第1位は馬路村(高知県)驚異の81% 有機農業の割合ランキング

農水省は9月、「有機農業をめぐる事情」を公表した。その中で「有機農業の取組面積が耕地面積に占める割合が高い市町村」という調査結果が併載されている(表)。

この調査は、22年度に実施された「21年度における有機農業の推進状況調査(市町村対象)」で、一定程度以上、有機農業の取組面積を把握していると回答した753市町村のうち、公表について「可」との回答があった市町村のみ掲載されている。

調査結果を見ると、有機農業の取組面積の耕地面積に占める割合は、馬路村(高知県)の81%が群を抜いて1位

となっている。同村は柚子の生産で知られており、柚子を生産する全ての農家で化学系肥料・農薬・除草剤の使用を控えている。

ランキング入りした他の市町村も、取組面積の大小に大きく違いがあるとはいえ、有機農業に熱心に取り組んでいる。日本全体で見ると堆肥は余るほど十分にあるとみられるが、それを各農家に供給する難しさが有機農業の普及の障害となっている。

有機農業に取り組む重要性は年々増しているため、耕畜連携などで堆肥を積極的に利用する道筋をつけていく必要がある。

有機農業の取組面積が耕地面積に占める割合が高い市町村

順位	市町村	有機農業の取組面積(ha)	耕地面積に占める割合
1	馬路村(高知県)	52	81.0%
2	西川町(山形県)	75	15.0%
3	柴田町(宮城県)	123	13.0%
4	小坂町(秋田県)	90	11.0%
5	江津市(島根県)	63	10.0%
6	大蔵村(山形県)	121	9.8%
7	様似町(北海道)	92	8.9%
8	大野市(福井県)	367	8.7%
9	北中城村(沖縄県)	5	8.7%
10	綾町(宮崎県)	59	8.6%
11	川根本町(静岡県)	44	8.5%
12	湯前町(熊本県)	46	8.1%
13	尾鷲市(三重県)	5	7.6%
14	小田原市(神奈川県)	113	6.5%
15	川本町(島根県)	21	6.1%
16	吉賀町(島根県)	44	5.2%
17	西原町(沖縄県)	6	5.1%
18	興部町(北海道)	314	5.0%
19	小国町(山形県)	51	5.0%
20	赤村(福岡県)	19	4.9%

農水省の資料より作成

農水省と意見交換会 島根県酪農協議会

今年の2月に農水省の渡邊洋一畜産局長が、酪農政策について酪農家と意見交換会を行いたいと発表した。

畜産局長の呼びかけにいち早く応じたのが、島根県酪農協議会(西谷悟郎会長)だ。8月22日に出雲市の島根県農業協同組合にて開催された。

農水省からは、畜産局牛乳乳製品課の、乳製品調整官と畜産専門官の2名、地元から中四国農政局、島根県畜産課、中国生乳販連、島根県酪農協議会会員ら16名が出席し、生乳の需給緩和や、畜産資材高騰などの様々な問題について、忌憚のない意見交換が行われた。

その後、意見交換会は全国各地で行われるようになった。

牛枝肉

秋の到来で、牛肉消費が少しでも活発になるか

10月の中旬に入り、ようやく暑さが弱まってきたが、まだ牛肉需要の伸びは見られない。あらゆる物価が上がりが続き、比較的高価な牛肉に手が出しづらい状況が続いている。

しかし、行楽に適した季節となり、また、これから年末商戦を翌月に控え、動きが活発になることが期待される。

【乳去勢】9月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、783円(前年同月比81%)となり、前月より10円上がった。やや持ち直したが底堅い状況は続いている。

【F1去勢】9月の東京食肉市場の交雑種去勢税込み枝肉平均単価は、B3が1474円(同99%)、B2が1267円(同99%)だった。前月に比べ、B3は42

円、B2は27円いずれも上昇した。10月に入ってからはB3で1350~1550円台で揺れ動いている。

【和去勢】9月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2079円(同91%)、A3が1824円(同90%)だった。前月に比べ、A4が40円、A3は6円それぞれ上がった。10月中旬までも、A4で2100円を超える日はわずかだった。

【輸入量】農畜産業振興機構は10月の輸入量を総量で3万7700t(同78%)と予測。内訳は、冷蔵品1万6100t(同111%)、冷凍品が2万1600t(同63%)。冷蔵品は豪州産等がかなり増加するが、冷凍品が前月同様大幅に減少することから、前年同月を大幅に下回ると予測した。

【出荷頭数】10月の出荷頭数は、和牛4万1700頭(同103%)、交雑種2万

2600頭(同104%)、乳用種2万9900頭(同105%)と、全品種で前年同月を上回る見込み。

出荷頭数は増えるが、輸入が減少し、涼しい季節になることで、荷動きはこれまでよりは好転するか。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が750~850円、F1去勢B4が1600~1700円、同B3が1450~1550円、同B2が1200~1300円、和牛去勢A4が2050~2150円、同A3が1800~1900円での相場展開で、弱もちあいの脱却に期待する。

豚枝肉

出荷頭数が回復傾向で、相場も弱もちあい

9月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物が699円(前年同月比110%)、中物は674円(108%)となった。前月に比べ上物が11円、中物が17円それぞれ下がった。

10月に入ると、上物が600円台前半で推移しており、600円を割る日も出てきている。

素牛

スモール

スモール価格が下落し、素牛相場も続落

【スモール】9月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が3万2738円(前年同月比210%)、F1(雄雌含む)は7万2852円(同82%)となった。前月に比べ、乳雄が6244円、F1が1万5619円の続落となった。

酪農家の和牛の種の交配が増加し、交雑種の頭数が増えている。また、枝肉相場の不振で、弱もちあいか。

【乳素牛】9月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が

農水省の肉豚生産

出荷予測によると、10月は145万頭(前年同月比104%)で、前月と比べると、9万3000頭増の見込み。猛暑のため、出荷遅延していた肉豚も出てくる。

九州で発生した豚熱も感染の広がり確認されており、現場の適切な処置が功を奏している。

畜産物需給見通し

農畜産業振興機構の需給予測によると、10月の輸入量は総量で7万1800t(同95%)と、やや減少の見込み。内訳は、冷蔵品3万1100t(同110%)、冷凍品4万700t(同86%)。

輸入は減少するが、出荷頭数がやや増えることで、相場はゆるやかな下降傾向となりそう。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が550~650円、中物は520~620円で推移か。

19万2073円(同140%)、F1去勢は31万9561円(同93%)だった。前月に比べ乳去勢は2509円下げ、F1去勢も1万136円下げた。

乳去勢は品薄感があり落ち込みは比較的緩いが、F1去勢は今後も下げ傾向が続くと見られる。

【和子牛】9月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、55万4163円(同85%)で、前月より3万2166円のマイナスとなった。

和子牛の価格の下落が続いている。酪農家による和子牛の生産が増えていたり、牛枝肉相場が低調で、肥育農家の素牛導入は依然としてブレーキがかかっている。今後も弱もちあいの推移か。

9月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	504	573	309	317	188,438	207,345	610	654
	F1去	2,130	2,003	339	345	318,220	328,429	939	952
	和去	2,492	1,957	336	334	602,949	649,315	1,794	1,944
東北	乳去	2	3	209	312	32,450	34,100	156	109
	F1去	2	3	271	259	148,500	158,767	548	614
	和去	2,454	2,323	314	324	569,095	588,385	1,813	1,816
関東	乳去	59	8	304	268	272,353	61,738	896	230
	F1去	164	148	357	364	328,652	347,730	921	956
	和去	749	929	322	316	600,352	632,658	1,864	2,000
北陸	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	63	104	309	284	562,275	510,294	1,820	1,797
東海	乳去	2	0	280	—	92,950	—	332	—
	F1去	65	75	324	332	301,011	284,460	930	857
	和去	480	200	285	267	572,532	618,140	2,011	2,319
近畿	乳去	—	—	—	—	—	—	—	—
	F1去	—	—	—	—	—	—	—	—
	和去	426	167	273	259	795,927	804,113	2,919	3,105
中四国	乳去	25	89	300	273	108,108	136,054	360	499
	F1去	278	279	334	333	334,373	327,504	1,000	983
	和去	720	615	301	305	541,522	563,248	1,797	1,846
九州・沖縄	乳去	3	5	273	231	96,067	82,500	352	357
	F1去	422	407	336	339	316,706	340,475	942	1,004
	和去	10,775	7,889	299	300	526,689	562,598	1,761	1,873
全国	乳去	595	678	308	310	192,073	194,582	624	628
	F1去	3,061	2,915	339	344	319,561	329,697	943	958
	和去	18,159	14,054	306	309	554,163	586,329	1,811	1,898

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。—は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。